

柏原市遺跡群発掘調査概報

1993年度

1994年3月

柏原市教育委員会

序 文

柏原市が開発等に先立つ緊急発掘調査を独自に実施するようになり十余年が経ちました。近年、本市の中心的農産物であるぶどうの生産は、後継者不足等、諸般の事情から急激ではないにしろ減少の一途を辿っています。その後の土地利用の一つとして、都市に近くなおかつ緑が豊かである地に住まいを求める需要に対する、供給としての共同住宅等の建設があります。柏原市域では共同住宅建設に伴う調査件数はここ数年目立った増減はなく、横ばい状態が続いている。しかし、今後更に景観の変貌が山間部にまで及ぶ時、良好な自然環境を誇りとしている本市にとって、最優先されるものは何であるかを見極め、その責を果たすべく思慮しているところです。さらなるご理解とご協力を賜らんことをお願い致します。

1994年3月

柏原市教育委員会
教育長 勃刀和秀

例　　言

1. 本書は柏原市教育委員会が1993年度に原因者負担事業として実施した、平野遺跡93-4次、
大県南遺跡93-2次、太平寺廃寺92-1次、安堂遺跡92-3次の発掘調査概要報告書である。

2. 発掘調査、本書の執筆、編集は柏原市教育委員会社会教育課 石田成年が担当した。

3. 調査、報告書作成に際し、次記の諸氏の参加、協力があった。(順不同・敬称略)

奥野 清 谷口鉄治 分才隆司 松尾洋平 西島伸彦 山口 剛
津田美智子 阪口文子 酒井英利香 有江マスミ 乃一敏恵 村山ゆき子

4. 調査に際し、次記の関係各位には格別のご配慮を賜った。記して謝意を表します。

安田建設工業株式会社 田仲豊作氏 田仲清高氏 株式会社淺沼組
中辻信太郎氏 生和建設株式会社 山下真弓氏 株式会社森本組
株式会社アート 株式会社鳥田組

5. 本書図中の方位は磁北、標高はT. P. で表示した。

目　　次

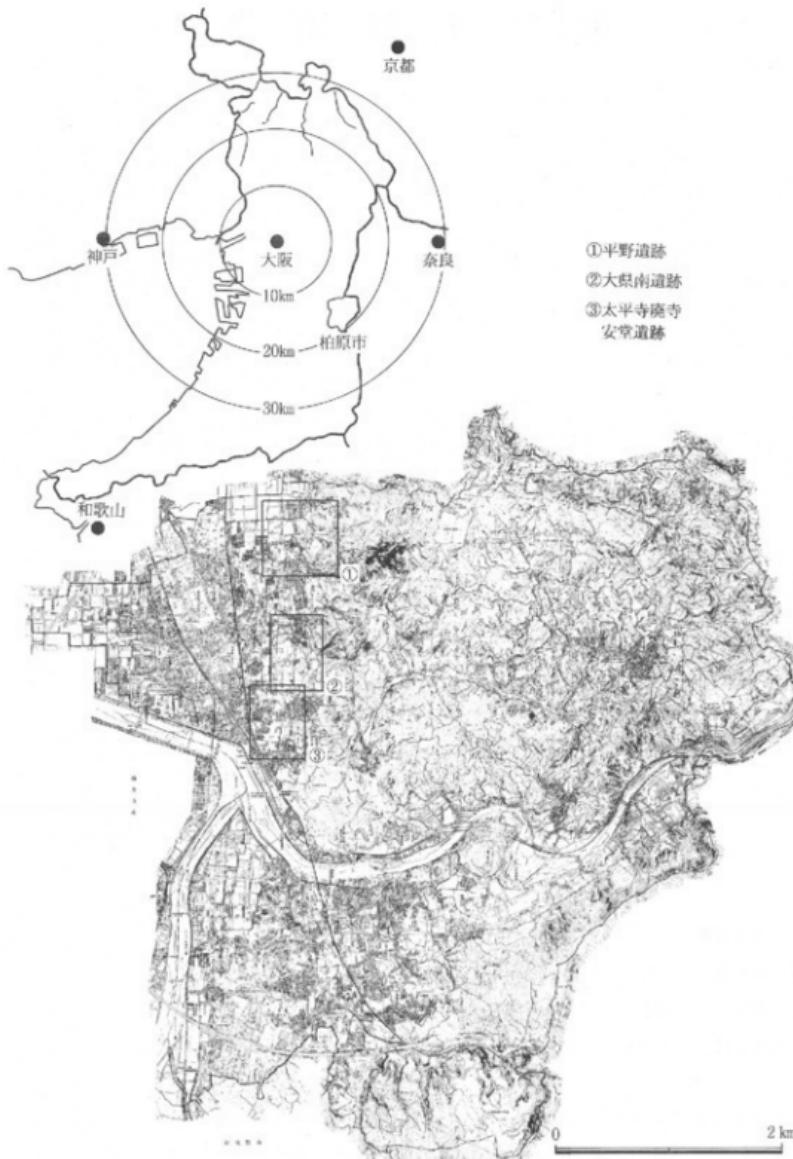
序 文

例　　言

目　　次

第1章 平野遺跡.....	2
第2章 大県南遺跡.....	6
第3章 太平寺廃寺.....	13
第4章 安堂遺跡.....	15

図　　版



第1図 柏原市位置図

第1章 平野遺跡

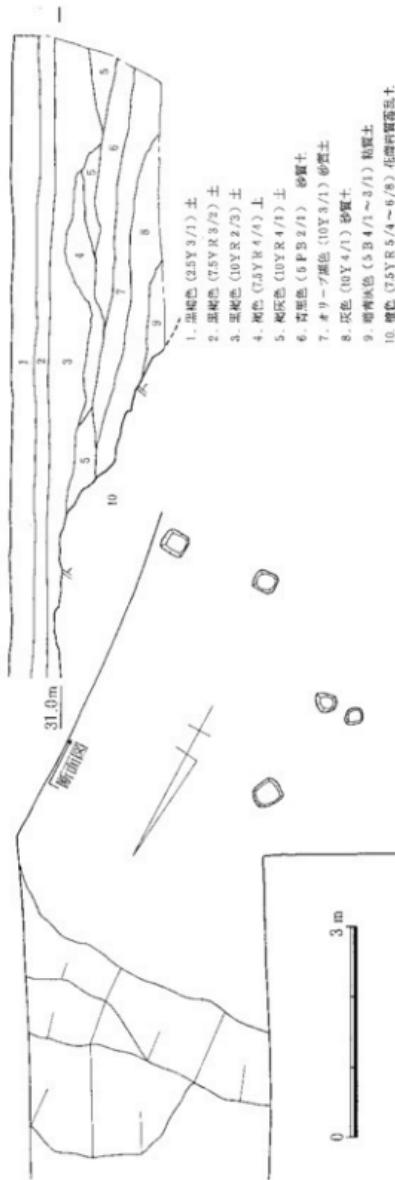
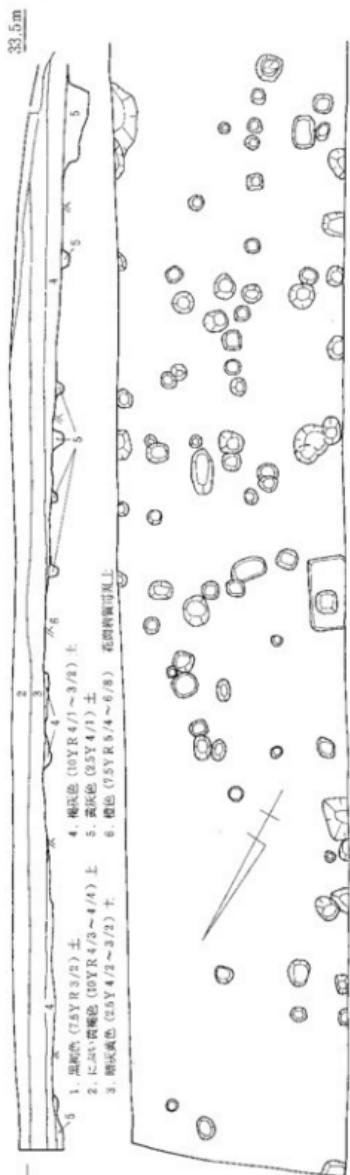


第2図 調査対象地位置図 ($S=1/5000 \sim 1/1000$)

93-4次調査

- ・調査対象地 柏原市平野2-458-1
- ・調査期日 1993年10月4日～10月12日
- ・対象面積 2711.10m²

当該調査は共同住宅建設に伴う事前発掘調査である。対象地は生駒西麓南端近くに位置する西向きの斜面で、現況は山林、畠地である。試掘調査を1993年9月27日、28日に実施した。7箇所(57m²)の調査区のうち、対象地の中段から下段にかけて遺構、遺物包含層を検出したため本調



第3図 造構平面図・東壁断面図

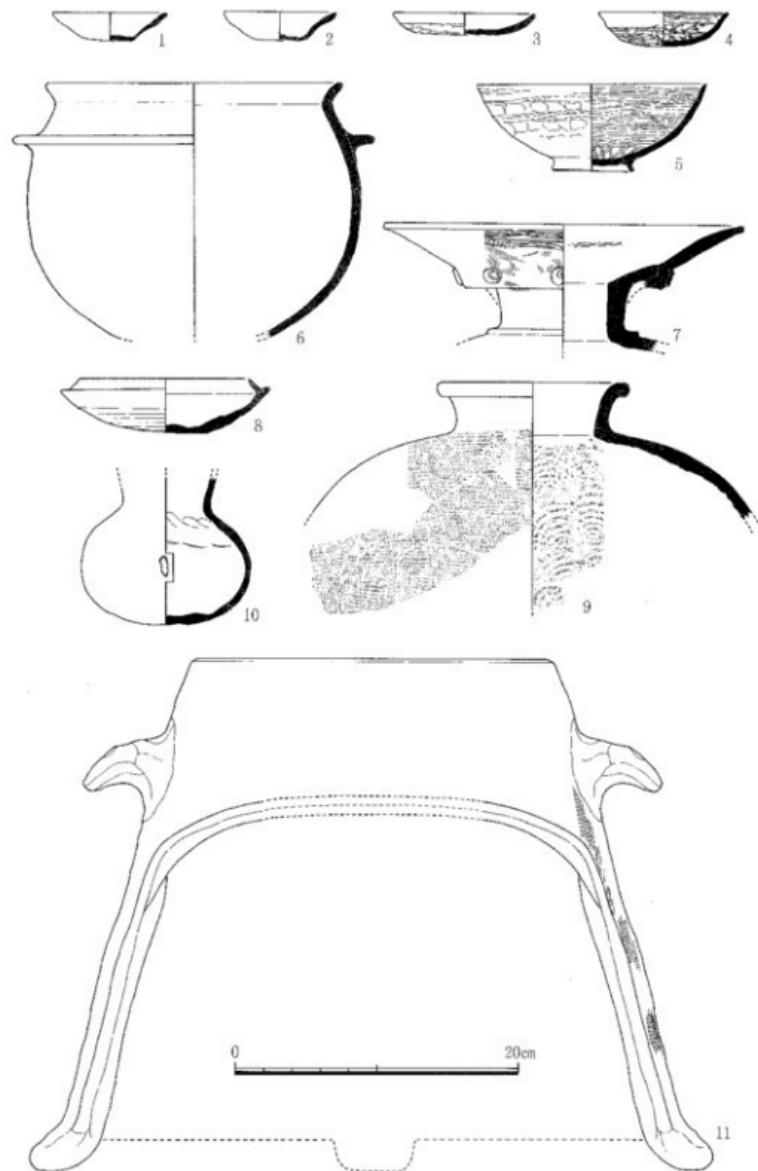
査を実施することとなった。調査面積は140m²である。調査に要した費用は、依頼者である安田建設工業株式会社の負担による。なお『柏原市東山地区における遺跡分布調査報告書』(1980年3月大阪府教育委員会)には対象地内東北隅に新発見古墳が記されている。試掘調査ではその地点に調査区を設定したが、古墳の証左を得ることはできなかった。

調査は表上、耕土を重機で除去し、遺物包含層以下を人力により掘削した。

層序は調査区北半（上段）では表土、耕土、暗灰黄色土（第3層、中世遺物包含層）に続いて、現地表下20~40cmで地山である花崗岩質葛乱上に達する。南半（下段）では、北半で水平であった地山が、南方向に谷を形成するように段をなして落ちていく。第3層から第6層は遺物包含層で、第3層から第5層は中世遺物を多く含み、第6層は古墳時代から中世にかけての遺物を多く含む。以下、地山までは無遺物層である。

遺構としてピットを主に上段で検出した。径15~50cm、深さ10~40cm前後を測る。埋土は褐灰色土、黄灰色土である。これらについては包含層、遺構埋土から出土の上器類から、中世のものと判断される。遺構の残存状況が良好でなく、大きく地形の改変を受けているようである。下段においてもピットを検出した。隅丸方形状を呈し、一辺20~40cm、深さ15cm前後を測る。上段のピット同様残りはよくない。

遺物包含層、遺構埋土から土器類の出土があった。土器類は通有の須恵器、十師器である。1から6は調査区北半（上段）および南半（下段）第4層、第5層で出土した中世上器である。7から11は南半の第6層からの出土である。7は二重口縁壺の口縁部、にぶい褐色を呈する。口縁部は擬口縁部の先端下方に貼り付けられる。貼り付けを強固にするためか、擬口縁端部にハケ目がつく。また口縁部下端に円形浮文を貼付する。10は上師器長頸瓶。口縁部を欠く。体部中程に外側からと思われる穿孔がある。11は移動式竈。茶褐色を呈し、やや粗い胎土に3mm以下の長石、石英、雲母、角閃石を含む。口縁端部から焚き口下端まで遺存することから、口径24.5cm、器高26.3cmと復元できる。



第4図 山上遺物

第2章 大県南遺跡



第5図 調査対象地位置図 (S = 1/5000・1/800)

93-2次調査

- ・調査対象地 柏原市大県4-369他
- ・調査期日 1994年1月10日～2月10日
- ・対象面積 2360.19m²

当該調査は共同住宅建設に伴う事前発掘調査である。現況はぶどう畑である。試掘調査を1993年2月16日に実施し、遺物包含層、遺構を検出したため本調査を実施することとなった。調査に要した費用は、依頼者である田仲農作氏、田仲清高氏の負担による。

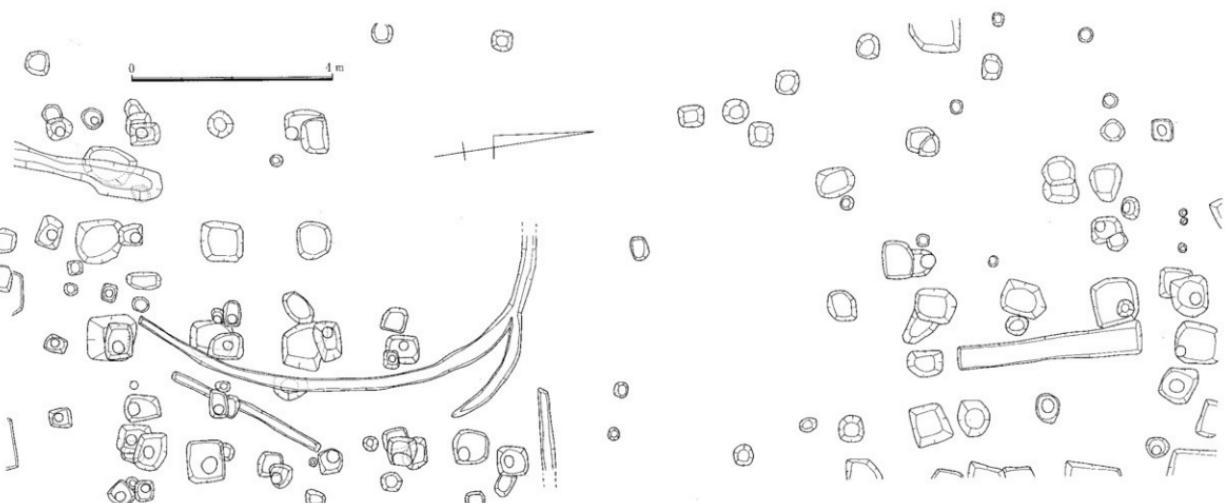
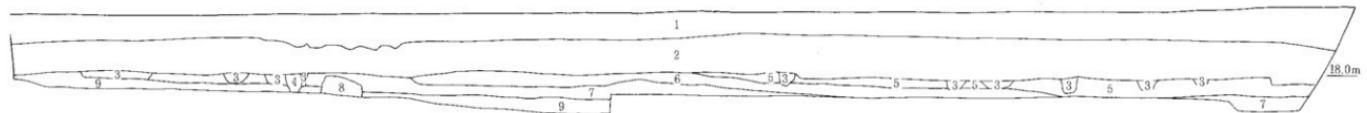
調査は遺物包含層上面までを重機で除去し、以下遺構面まで人力により掘削した。但し、掘削士仮置き場所の都合から、調査区を北と南に二分し、北半から実施した。

現地表下70～130cm（第2層）は古墳時代から中世までの通有の土器類を多量に含む。その層を除去すると遺構面となる。標高は18.0m前後。若干東南方向に高く、西北方向に傾斜する。遺構が穿たれる層（第5～9層）は遺物を含まない。

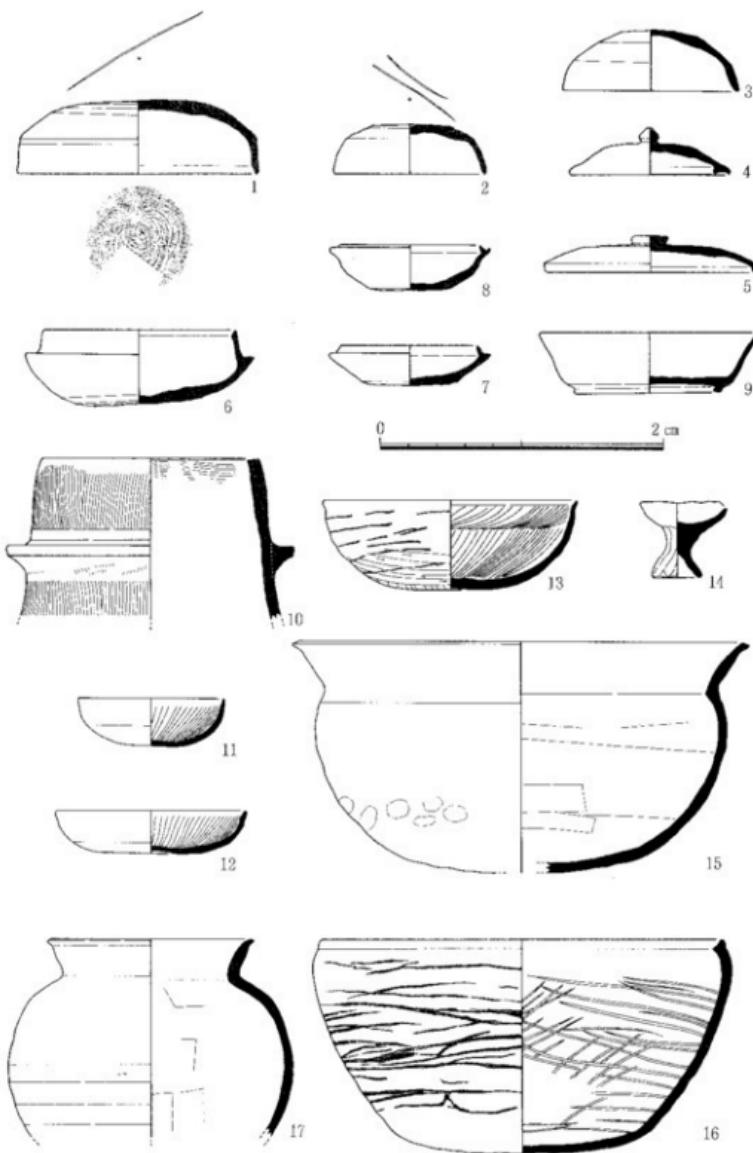
遺構としてピット、溝を検出した。ピットは北辺と南半で多く検出し、中央では希薄である。隅丸方形のものは一边30～100cm、遺存する深さ15～50cmを測る。円形のものは径15～50cm、遺存する深さ15～50cmを測る。概観すると、調査区南西部に埴物が1基、他に南北を軸とする棚が数基認められる。溝は南半で検出した。半円状に回る1条とそれから派生するもの、隣接するものの各々1条がある。幅は20～35cm、深さ15cmを測る。さらに調査区外南へ延びる1条があり、幅40～60cm、深さ20～35cmを測る。

遺物包含層、遺構埋土から土器類の出土があった。土器類は古墳時代から中世にいたる通有の須恵器、土師器である。1は須恵器蓋、内面大井部に同心円の当て貝痕が残る。外面大井部には「一」のヘラ記号がある。全てを図示していないが、ヘラ記号を持つものは2をはじめとして今のところ10点近く確認している。10は須恵質土管状上製品。口縁部径15.2cm、上部から6.1cmにある突帯部径20.3cm、体部は下部で開いていく。口縁端部はナデで平坦に仕上げられ、突帯は貼り付け、体部はカキ目調整である。陶邑・大庭寺遺跡をはじめ他遺跡での出土例では陶棺とされている。20は移動式壺。釜穴口縁部から焼き口上半にかけて良好に残るが、下半を欠く。口縁部径27.3cm。体部両側に三角形状に尖る把手がやや下向きにつく。底は付け底で厚く、大きく突出する。他に釜穴口縁部に同心円の当て貝痕を有する破片も見られる。21はガラス玉の鉢型。たて5.7cm、よこ3.6cmの破片である。厚さは1.5cm。色調は赤褐色（10YR 4/4・4/6）を呈する。型部は径5.5mm、深さ2.5mmで、その中心から径1.0mm弱の小孔が貫通する。図示した他の鉄滓、羽口等鍛冶関係遺物も出土している。

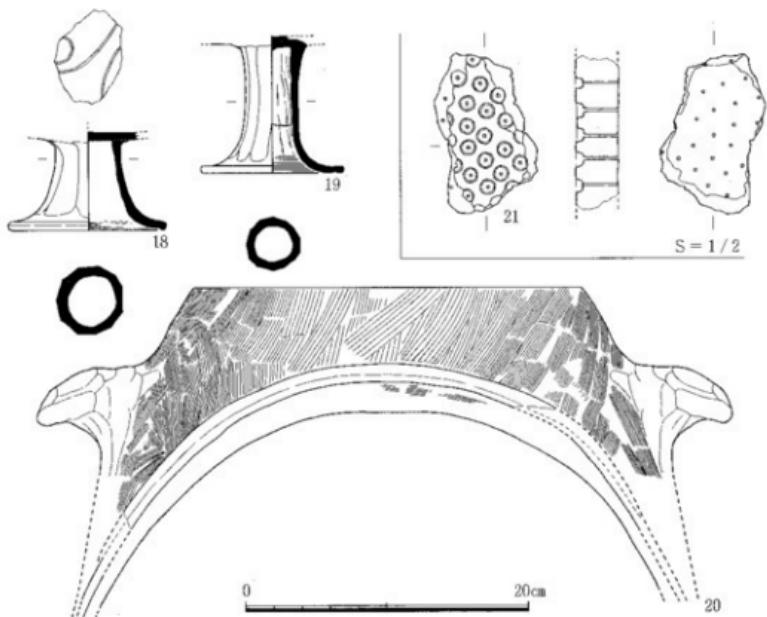
本調査は年度末近くに実施し、またコンテナ50箱もの出土遺物があったことから時間的に余裕がなく、年度内調査の掲載を原則とする本概報においては十分な調査成果をまとめには至らなかった。遺物の数的処理やそれらから導き出される遺構の位置付け等、一連の作業や課題は残されたままである。大県南遺跡では本調査に統いて隣接地において共同住宅建設に伴う緊急調査が数件予定されている。本調査の整理作業は継続することとし、条件が整えば94年度末にはそれらとともに改めて成果を公にし、責を果たすこととしたい。



第6図 造構平面図、西壁・北壁断面図



第7圖 出土遺物



第8図 出土遺物

第3章 太平寺廃寺



第9図 調査対象地位置図 ($S = 1/6000 \sim 1/800$)

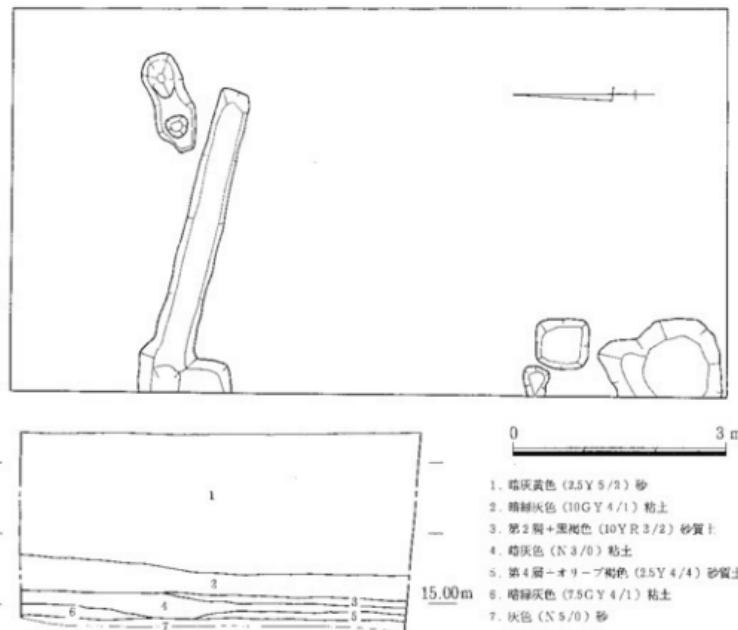
92-1次調査

- ・調査対象地 柏原市太平寺2-367-3, 368-1, -2
- ・調査期間 1993年6月23日～7月5日
- ・対象面積 1755.47m^2

当該調査は共同住宅建設に伴う事前発掘調査である。現況はぶどう畑である。試掘調査を1992年12月3日に実施し、遺物包含層を検出したため、浄化槽部分について本調査を実施することとなった。調査面積は 55m^2 である。調査に要した費用は、中辻信太郎氏の負担による。

調査は現地表下 240cm までを重機で除去し、以下を人力により現地表下 280cm まで掘削した。第2層までは無遺物層で、以下は遺物包含層である。

湧水が著しく遺構検出に難渋したが、第7層灰色砂質土を穿つ土坑、溝を検出した。土坑は5基検出した。径は $40\sim160\text{cm}$ 、深さ $20\sim55\text{cm}$ を測る。溝は幅 $50\sim60\text{cm}$ を測る。深さは $15\sim25\text{cm}$ で底

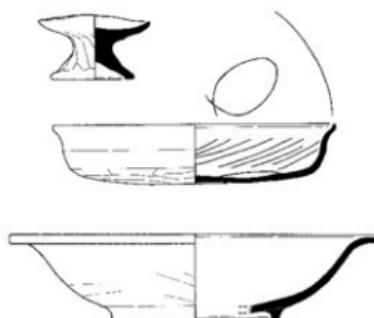


第10図 遺構平面図・南壁断面図

面は東が高く、西で土坑と重複する。

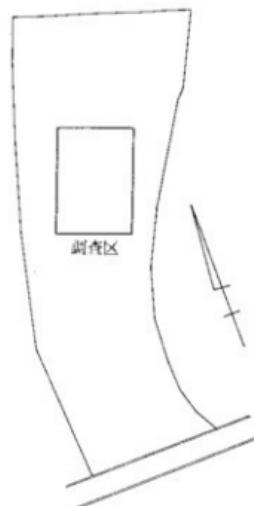
遺物包含層、遺構埋土から上器類、瓦類の出土があった。細片が多い。土器類は図示したように通有の須恵器、上師器である。

調査対象地の標高は17.5mと太平寺廃寺の想定地内では突出したものではない。しかしながら遺構検出面は現地表下270cm、標高14.8mと周辺の既往の調査地に比して低い。今後、調査総面積は少ないものの調査例の増加にともない、自然地形の復元も必要となるであろう。



第11図 出土遺物 (S = 1 / 4)

第4章 安堂遺跡



第12図 調査対象地位置図 ($S = 1/6000 \cdot 1/600$)

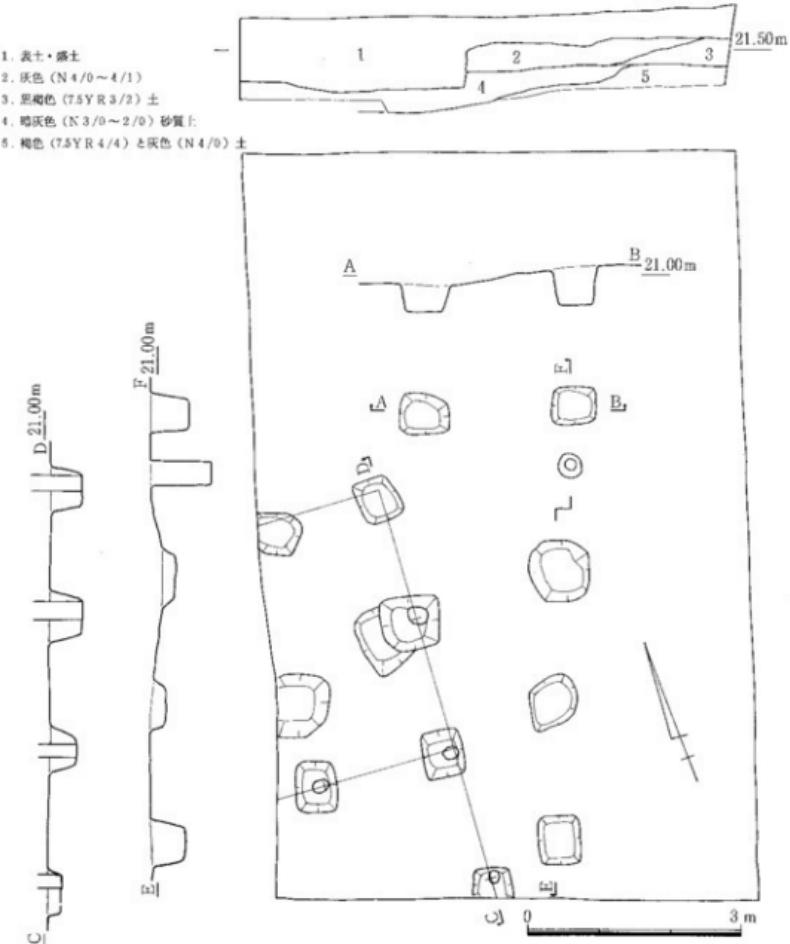
93-3次調査

- ・調査対象地 柏原市安堂町914, 974-2
- ・調査期日 1993年7月5日～7月9日
- ・対象面積 717.09 m²

当該調査は共同住宅建設に伴う事前発掘調査である。現況はぶどう畑である。試掘調査を1992年8月5日に実施し、遺物包含層を検出したため、建物本体部の一部である87.5 m²について本調査を実施することとなった。調査に要した費用は、依頼者である山下真弓氏の負担による。

調査は表土、盛土を現地表下80cmまで重機で除去し、以下を人力により現地表下120～140cmまで掘削した。第2層以下は遺物包含層で、第4層、第5層の上面が遺構面である。

遺構として柱穴を14基検出した。1基を除き平面は隅丸方形を呈し、一边40～80cm、深さ20～60cmを測る。調査区南西で検出した柱穴群は規模、軸方向が近似することから一つの建物を構成



第13図 遺構平面図・断面図、北壁断面図

するものと思われる。柱穴4基については径20cm前後の柱根が遺存する。柱間は芯心間で190~200cm。さらに調査区外、南と西へ延びるようである。調査区と軸を同じくする柱穴については、ほぼ等間隔に並ぶことから建物か柵を構成することも考えられる。北の2基を除いて軸の東西で同様の柱穴は認められなかった。遺物包含層、遺構埋上から土器類、瓦類の出土があった。細片

が多い。上器類は図示したように通有の須恵器、土師器である。



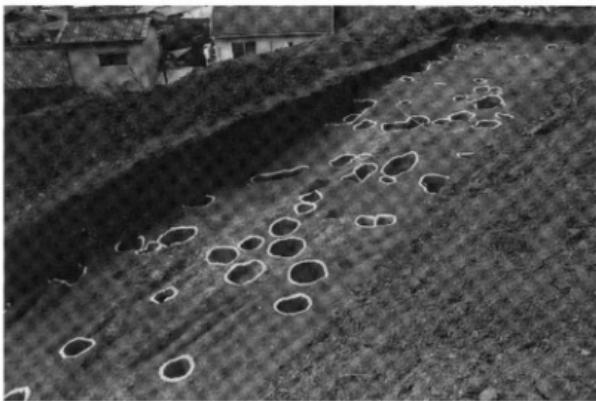
第14図 出土遺物 ($S = 1/4$)

図 版

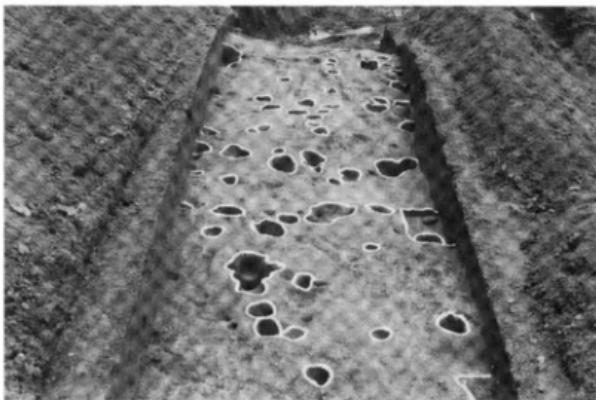
図版一
平野遺跡



対象地近景（南から）

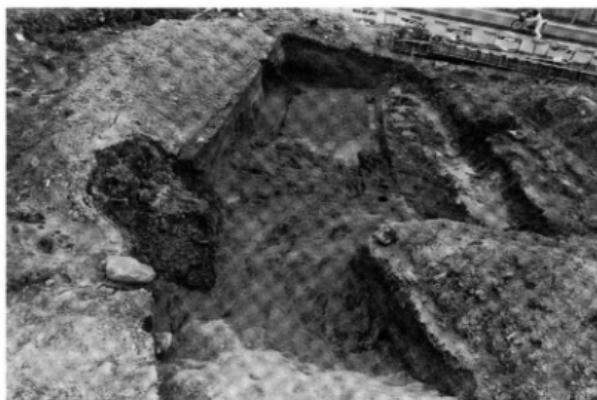


上段（南から）

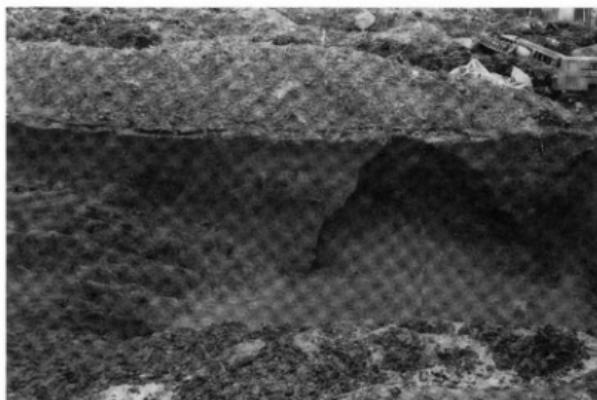


上段（北から）

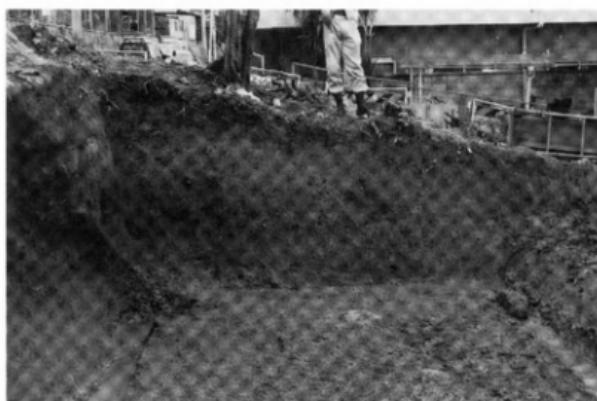
図版二
平野遺跡



下段（北から）

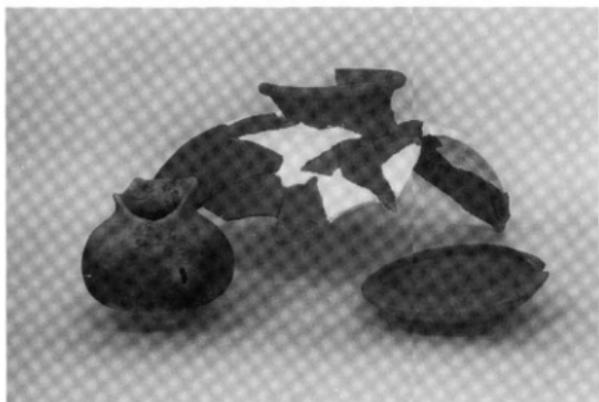


下段東壁



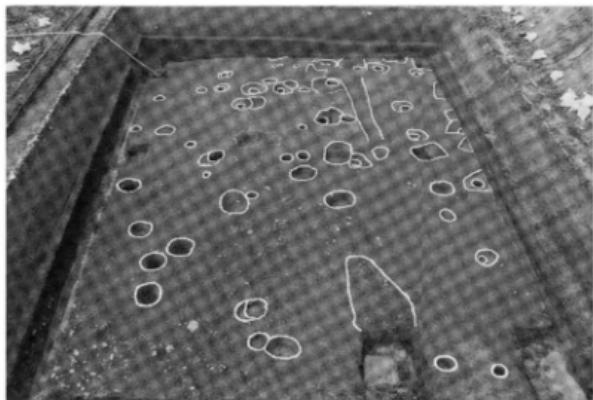
下段南壁

圖版三
平野遺跡



出土遺物

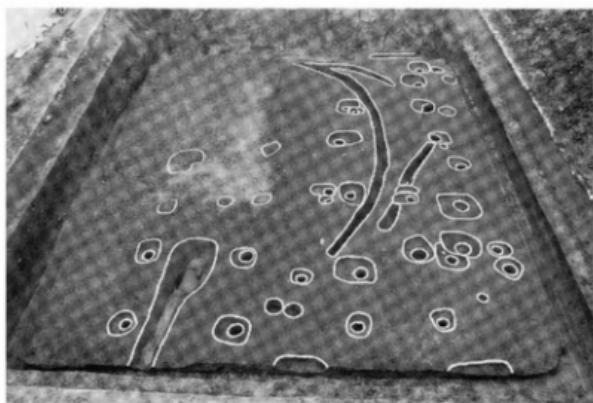
図版四 大槻南遺跡



北半（南から）



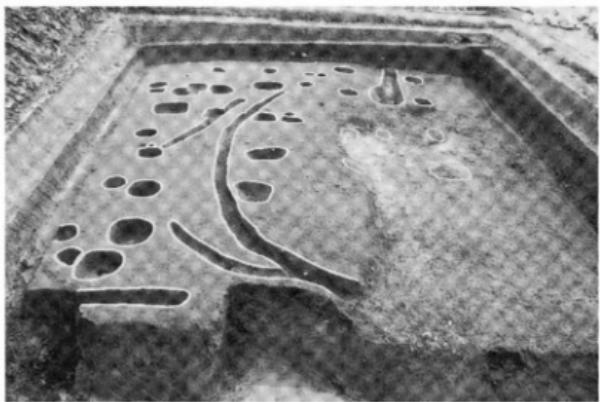
北半（東から）



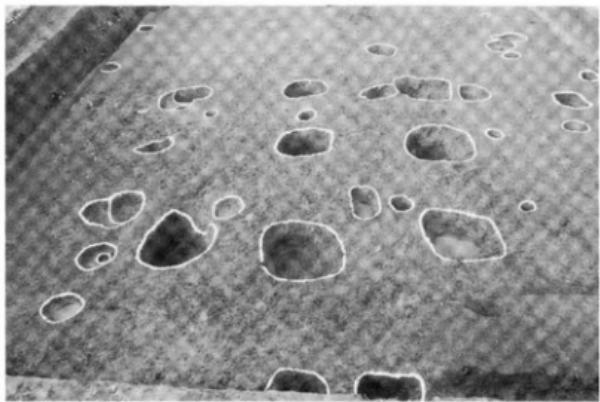
南半（南から）



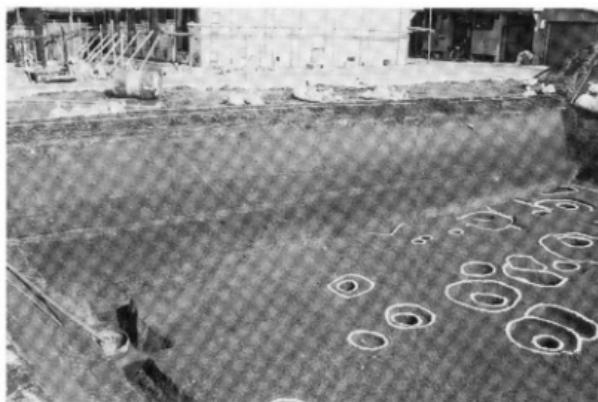
南半完掘（東から）



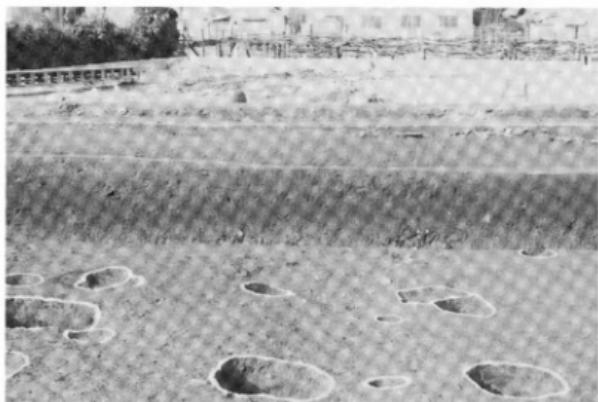
南半完掘（北から）



建物 1（南から）



北半北壁断面



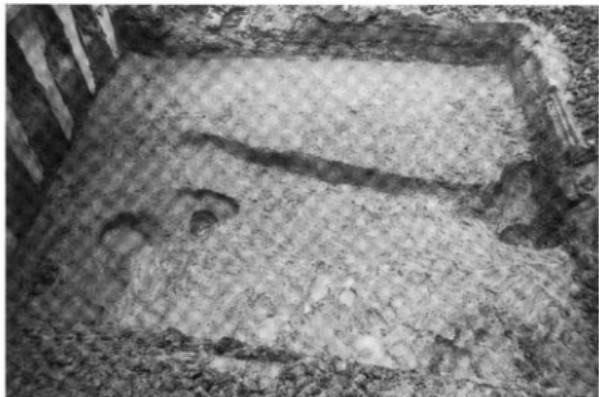
南半西壁断面



作業風景



北半（西から）



北半（北から）



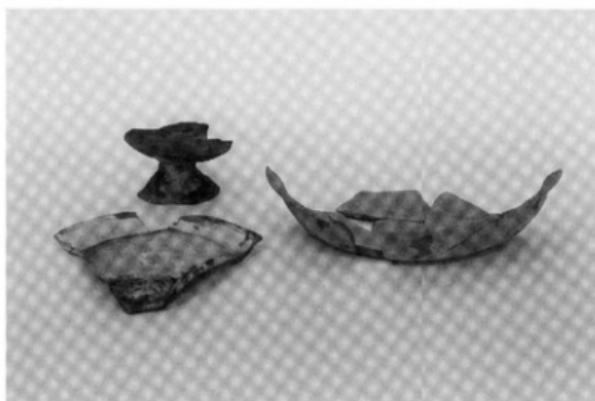
南半（南から）



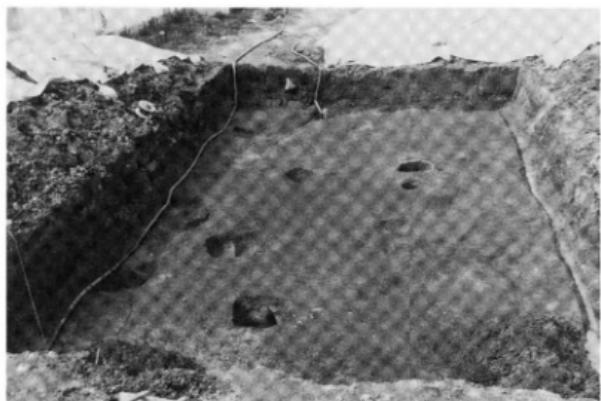
南壁



作業風景



出土遺物



全景（南から）



全景（北から）



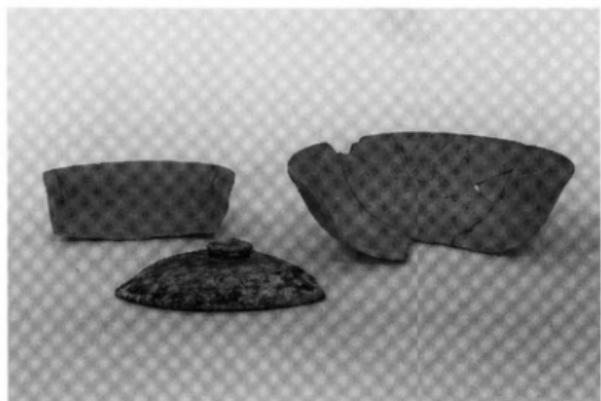
作業風景



北壁断面



柱列（南から）



出土遺物

柏原市遺跡群発掘調査概報

1993年度

編集・発行 柏原市教育委員会

〒582 大阪府柏原市安堂町1番43号

電話（0729）72-1501

発行年月日 1994年3月31日

印 刷 東洋紙業高速印刷機

